

森林整備保全事業計画（H16～H20）のポイント

～ 森林は かけがえのない「緑の社会資本」 ～

- 「改革と展望」等で示された方向性を踏まえた上で、従来の「森林整備事業計画」と「治山事業計画」とを統合・一本化。
- 計画策定の重点を「事業量（総事業費）」から「目指す成果」に転換し、「安心」「共生」「循環」「活力」の4つの視点から目標を設定。

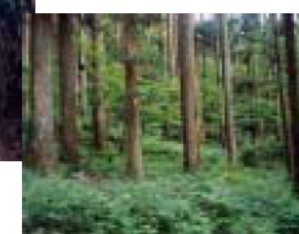
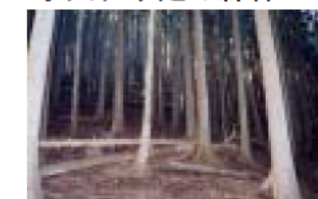
● 『安心』・・・国民が安心して暮らせる社会の実現

主な成果指標 「水を育み、国土を守る」手入れの行き届いた森林を増加させる。

手入れの行き届いた健全な森林の割合を増やし、森林を再生



手入れ不足の森林

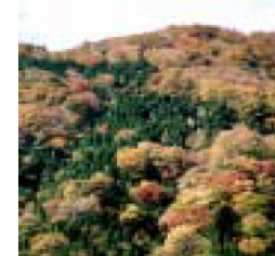


手入れの行き届いた健全な森林

● 『共生』・・・森林と人との共生する社会の実現

主な成果指標 広葉樹林や樹齢の高い森林などを増加させ、森林の多様性を向上させる。

森林植栽の約35%（現状約31%）を針広混交林など多様な森林に



針広混交林



複層林



広葉樹林

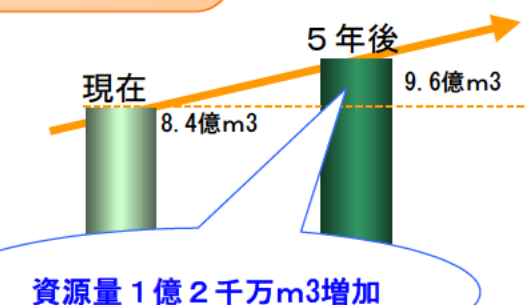
● 『循環』・・・循環を基調とする社会の実現

主な成果指標 環境にやさしい素材である木材を安定的に供給することが可能な森林の資源量を増加させる。

「資源」として活用できる森林の量を1億2千万m³増加



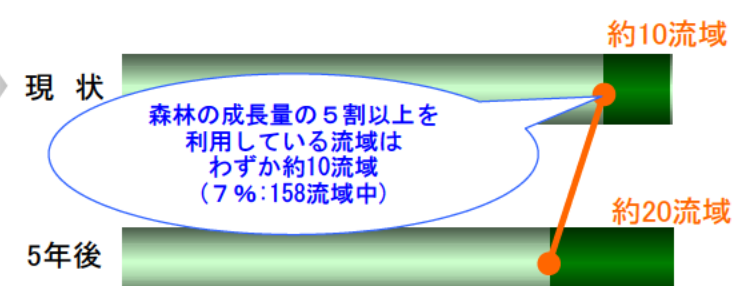
高性能な林業機械による作業が可能となる路網整備



● 『活力』・・・活力ある地域社会形成への寄与

主な成果指標 森林資源を活かした地域づくりに取り組んでいる流域を増加させる。

森林資源を活かした流域を現状の2倍に増加



木製交流施設



木質バイオマス利用施設